

平成30年12月18日

「そらいろ子ども食堂」の視察について

氏名 杉山節子

- 1 訪問日 平成30年12月16日(日) 15:00~18:00
- 2 会場 白新コミュニティハウス
- 3 対象 子どもだけではなく、基本的に誰でも対象
- 4 運営団体 新潟青陵大学および新潟県立大学の学生
- 5 活動の概要

●核家族化や女性の活発な社会進出を受けて、食事に対する価値観も多様化してきたことにより、家族が揃って皆で一緒に食事をするというかつては「当たり前」であったことが難しくなっている子どもたちに対し、学生が主体となって運営する「子ども食堂」の活動を通して、地域と関わることの楽しさなどに気付かせ、子どもたちに「生きる力」を身に着けさせることを狙いとしている。

●強制されたものでなく、学生自身が主体的に考え、意思決定し、地域や様々な方のご支援をいただきながら、子ども食堂を運営している。

6 活動にみえる「次世代育成」

●学業・就活・アルバイトなど、多忙な学生生活を送っている大学生が中心となって、主体的に運営しているこの活動も1周年を迎え、この間の活動は目覚ましいものがある。

●子どもたちの活動の様子を見ていると、非常に生き生きとしている。遊びや会話などを通して、大学生や同席した友達と活発にコミュニケーションを行い、地域の子どものための居場所づくりができています。

●現在運営を担当している学生たちが、今後の卒業や就職などで運営から遠ざかる時、次に運営の主体となる学生らにうまく引き継ぎができるかどうか大きな課題であると考えています。

7 今後に向けて

●現在のスタッフから次代への引き継ぎがうまく行われるかどうか、重要な課題です。学内や学生間の話し合いはもちろん、運営に参画・協力している地域の方々なども交えて、これからも継続できる方向性を互いに確立しておくことが求められます。

●社会教育委員は、本日のような視察を受けて、その活動を広く人々に知らせ、一般の関心を高め、命申していくことで、この活動が継続していく助力の一つとなるであろう。

以上